

まちの姿3

暮らし “おだやか”

分野8 生活基盤

分野9 消防・防災

分野10 防犯・交通安全



生活基盤



目指す姿

安定した生活環境の整備によって、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしています。

さつま町のいま

- 町民の安定した暮らしを守るため、道路や上水道などのライフラインや公営住宅などの維持・整備に取り組んでいます。
- 今後も持続可能なライフラインの整備をしていくほか、移住者を受け入れることができるよう、既存資源の活用も含めた生活環境の充実に向けて取り組んでいく必要があります。

進捗管理指標

- 乗合タクシーの利用者数
- コミュニティバス1便あたりの利用者数
- 町営住宅改修戸数
- 有収率（上水事業で配水した水のうち、水道料金の対象となる利用をされた水の割合）

関連計画

- 過疎地域持続的発展計画
- 橋梁長寿命化修繕計画
- 下水道事業経営戦略
- 下水道ストックマネジメント計画
- 建築物耐震改修促進計画
- 公営住宅等長寿命化計画
- 公共施設等総合管理計画

成果指標



- 国土強靱化地域計画
- 個別施設計画
- さつま町建設計画
- 社会資本総合整備計画（下水関係含む）
- 地域公共交通計画
- 都市下水道ストックマネジメント計画
- 土地利用計画構想
- トンネル長寿命化修繕計画
- 舗装維持管理修繕計画
- 林道施設長寿命化計画
- 生活排水処理基本計画
- 水道事業経営戦略
- DX推進計画

施策の方向性

1 住みたい・住み続けたい住環境を整えます

- 宅地の分譲促進や公営住宅の適正な維持・管理を行うとともに、公募情報の公開を通じて定住を促進します。
- 移住相談会やお試し住宅の利用を通じて移住・定住の促進に取り組むとともに、空き家の利活用など、新たな住まいの確保を支援します。
- 住環境整備やその他の土地利用について、各種法令に基づき対応し、適切な利用を推進し、まちの自然・生活環境を守ります。

まちのみんなのできること

- 空き家を放置せず、適切な管理や空き家バンクへの登録を検討しましょう。
- 家族で、住まいや土地の将来を考えてみましょう。

施策の方向性

2 誰もが気軽に外出できる環境を整えます

- 交通事業者や町民、周辺自治体などのさまざまな主体との連携のもと、持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に取り組みます。
- 安全な道路・橋梁環境の整備に向けて、町道の適切な管理を行うとともに、国道・県道については、関係機関に整備の必要性を働きかけます。
- バリアフリーやユニバーサルデザインを踏まえた公共施設の更新や環境整備を進めます。

まちのみんなのできること

- 身近な公共交通を積極的に利用しましょう。

施策の方向性

3 安全・安心な水が利用できる環境を整えます

- 安全・安心で災害に強い上水道の利用環境整備を進めるとともに、使用料の適正化と健全な経営に努めます。
- 合併処理浄化槽の導入推進や、農業集落排水施設の維持・管理を行い、生活排水による環境への負荷を抑えます。

まちのみんなのできること

- 水道水を大切に利用し、節水を心がけましょう。
- 大切な施設や河川の水質を守るため、異物は流さないようにしましょう。

用語解説

合併処理浄化槽：トイレや台所、洗面台など、家庭から排出される生活排水を一括して浄化し、きれいな水にして放流すること。トイレからの排水（し尿）のみを浄化する単独浄化槽よりも、環境への負荷が少ない。

農業集落排水施設：主に農村地域において、各世帯から出される生活排水を浄化し、きれいな水にして農業用水路や川に放流する施設のこと。合併処理浄化槽は各世帯が設置し処理するのにに対し、農業集落排水施設は集落や地域に設置され、各世帯の排水管を接続して一括で処理する。

消防・防災



目指す姿

一人ひとりの防火・防災意識が高まり、
誰もが緊急時にも適切に命を守る行動ができる強くてやさしいまちになっています。

さつま町のいま

- 地域ごとの自主防災組織や消防団などと連携し、避難訓練や防災意識の向上の取り組みを進めています。
- 全国的に災害が激甚化しているだけでなく、地域の防災の担い手減少が課題となっています。
- 一人ひとりがいざというときに適切な対応ができるよう備えるとともに、地域全体が災害に強いまちづくりを進めていく必要があります。

進捗管理指標

- 自主防災組織結成率
- 自主防災組織の訓練実施率
- 消防団員定数に対する充足率

関連計画

- 過疎地域持続的発展計画
- 業務継続計画
- 国民保護計画
- 国土強靱化地域計画
- さつま町建設計画

成果指標

さつま町は災害に強いまちだと思える割合

	R6	R12
	20.6%	50.0%以上



- 災害時受援計画
- 消防計画
- 地域防災計画
- DX推進計画

1

地域と協力した持続可能な消防体制をつくります

- 消防団活動の積極的な情報発信を進め、町民の理解を一層深めることで、団員の確保に取り組みます。
- 消防職員の計画的な採用を推進し、消防力の向上と組織の充実を図ります。
- 北薩3消防本部消防通信指令事務協議会を構成する3消防本部で連携し、消防の通信指令体制を維持します。

まちのみんなのできること

- 地域の消防活動について理解を深め、協力しましょう。
- 火の取り扱いには十分注意し、火災予防に努めましょう。

2

災害に強いまちづくりを推進します

- 防災教育などを通じて、一人ひとりの防災意識を高めるとともに、防災士の育成に取り組みます。
- 防災力強化に向けて、自主防災組織の設置や地域ごとの訓練の実施を推進します。
- 避難行動要支援者の把握と個別避難計画の策定を進めるとともに、誰もが安心して避難できる避難所の環境づくりを進めます。
- 町内の防災設備の維持・管理、備蓄品の定期的な更新を行います。
- 避難路確保や土砂災害防止、治水対策を計画的に行うとともに、防災マップなどを通じた災害危険箇所や適切な避難経路などの情報発信を行います。
- 防災情報や災害発生情報について、さまざまな媒体を通じて発信するとともに、多言語対応など、誰もが適切に情報を得ることができるようになります。

まちのみんなのできること

- 防災訓練に参加するとともに、日頃から避難経路や避難場所を確認しましょう。
- 災害に備えて、日用品などの適切な備蓄をしましょう。



用語解説

防災士：防災や災害発生時の対応に関する知識や技能を身につけ、社会の様々な場で防災力を高めるために活動できる人のこと。日本防災士機構が認証する資格を取得する必要がある。

防犯・交通安全



目指す姿

防犯・交通の環境整備や意識づくりが進み、
こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らしています。

さつま町のいま

- 町内の学校などにおいて交通安全教室や防犯に関する教育のほか、町民への啓発活動や安全な環境整備を進めています。
- SNSの普及や交通環境の変化によって、高齢者やこどもなど、誰もが犯罪や事故に巻き込まれる可能性が高まっており、一人ひとりの防犯・交通安全意識を高めていく必要があります。

進捗管理指標

- 交通事故件数（人身事故）
- 刑法犯罪認知件数
- 消費生活講座受講者数

関連計画

- 過疎地域持続的発展計画
- 交通安全計画

- さつま町建設計画
- DX推進計画

成果指標

交通安全対策・防犯面で
安全安心なまちだと思う割合



施策の方向性

1 犯罪ゼロの安心できるまちをつくります

- 関係団体と連携しながら、防犯に関する情報発信と防犯意識の醸成を進めます。
- 安心して生活できる地域づくりに向けて、防犯灯や防犯カメラの計画的な維持・管理と整備支援を行います。
- 消費者相談窓口において消費者トラブルへの対応を行うとともに、未然防止に向けた情報発信を行います。

まちのみんなのできること

- 見守りや防犯パトロールを地域のみんなで行いましょう。

施策の方向性

2 交通安全のまちづくりを推進します

- 町民一人ひとりの交通安全意識を高めるため、交通安全運動を推進します。
- ガードレールやカーブミラーなど、交通安全施設の適切な整備・更新を行います。

まちのみんなのできること

- 交通ルールを守るとともに、通学路での見守りを行うなど、地域で交通安全に取り組みましょう。
- 道路や歩道で危険な箇所がある場合は、行政に連絡しましょう。

